

班番	タイトル	研究分野	要旨
L01	"みんな"のトイレのマーク	地域社会	従来の多目的トイレのマークは車いすを主な図柄としているため、利用対象者の範囲を誤解される恐れがあると考えた。そこで新たな多目的トイレのマークを考案する研究を行った。昨年の研究では、株式会社フジタへインタビューをして、マークを作るうえでの明らかにした条件を基にマークを制作した。三年次では、制作したマークの中でどれが最も理解されやすいかを実験によって明らかにし、より良いマークを探った。
L02	元受刑者の社会復帰支援策を考える	人権	令和元年では、検挙された者のうち再犯に至る者の割合は48.8%に及び、再犯者の約70%が無職であったことから、元受刑者の離職が再犯に関係していると考えた。前回の研究から、元受刑者の忍耐力やコミュニケーション能力の欠如が離職の要因の一つであることが分かったため、今回の研究では、実際に元受刑者を雇う企業を参考にしながら、忍耐力やコミュニケーション能力がない元受刑者でも働き続けられる職場環境を模索した。
L03	子どもの幸せのために	人権	近年虐待相談件数が増加傾向にあるため、その件数を少しでも減らすためにこの研究を行った。前回の研究では虐待を受けた子どもへのケアが必要だと分かった。そこで今回の研究では虐待を受けた子どもへの支援方法の一つである里親について研究した。里親の委託率が高いアメリカと比較して、なぜ日本が委託率が低いのかを考察した。
L04	プレゼンでの発声と呼吸量に姿勢が与える影響	社会	私達はプレゼンテーションにおいてより上手く話す方法を見つけることを目的として研究を行った。前回の研究で私達は、歌唱における姿勢がプレゼンテーションの話し方を改善すると考えたため、それを確かめるために、呼吸量によって発声を良くできるというデータをもとに呼吸時の姿勢による呼吸量の増減を計測した。この実験から、歌唱における良い姿勢によって呼吸量が増加することが分かった。
L05	分別を促すごみ箱とは	環境	近年、ごみを分別し、リサイクルすることの重要性が高まっている。そこで、本研究では、松村(2016)を参考に「仕掛け」を施し、分別行動を促すことを考えた。昨年度の研究では、仕掛けの心理要因の一つ「ポジティブな期待」を用いてペットボトルのキャップの分別行動を促すことができた。本研究では、ラベルの分別行動を促す心理要因を調査するためごみ箱に目のポスターを設置し、「見られている感覚」が分別行動に与える影響について調査した。その結果、ラベルの分別率は昨年度より向上した。
L06	地域の活性化につながるお土産について	文化	私たちの研究の目的は、豊田市の観光地である香嵐渓のお土産を考案することです。二年次では、豊田西高校の78回生を対象とした、選ばれやすいお土産の傾向に関するアンケートを実施しました。今年度は具体的な商品案を作成し、効果的な販売方法や数多く売れている商品のパッケージに用いられている心理効果などの調査を行いました。
L07	本当に興味深い民族文化～私たちはどれだけ認められる？～	文化	死人の魂を天へ戻すために遺体を鳥に食わせる葬儀、逆さ吊りにされ90mもの高さから振り回される成人式...。日本に住んでいる私たちから見ると、常識を超えている！と思える文化は山ほど存在します。しかしそれらの文化の中には受け入れられず、最悪な場合差別を受けるようなものもしばしばあります。そこで私たちはどうして他文化が国内で受け入れられにくいのか、そしてどうしたらより多くの他文化を受け入れられるか研究しました。
L08	お金が集まる箱!!	貧困	経済格差や自然災害、感染症など様々な原因により、困窮する人々の生活を手助けするために私たちができる活動の一つとして一番身近なものが募金である。そこで私たちは経済的支援が貧困問題の解決につながるかと考え、どうしたらより多くの募金を集められるか調査し、得られた結果をもとに募金箱を制作し、実験を行った。その結果、元からお金が入っており、寄付金の状況がわかる募金箱がより多くの募金を集められることが分かった。
L09	豊田市の清掃活動を大予想!! ～企業とアダプトプログラム～	環境	私たちは、豊田市のゴミの量を減らすためにアダプト・プログラムを通した清掃活動について研究を行いました。前回の研究でアダプト・プログラムは企業の協力があるとより大規模に活動できるということが分かりました。今回の研究では、アダプト・プログラム活動に協力する企業にはどのようなメリットがあるのか、また業種別の活動傾向から豊田市でどのような活動ができるかを考察しました。
L10	世界の幸福度指数から見る環境政策	環境	今日では急な気温上昇や異常気象が各地で起こり、問題となっている。そこで、昨年度の研究では環境モデル都市である豊田市の地球温暖化防止政策をより良くするためアンケートをとり、新たな政策を考えた。本研究では、幸福度指数の高さと地球温暖化防止政策への取組への積極性の関係を調べた結果、相関関係があることが分かった。それらの結果を踏まえ、より良い政策にする方法を考えた。
L11	安全保障理事会の新構造提案	国際	ロシアのウクライナ侵襲に対し国連安保理ではロシアの全面撤退を求める決議が行われたが、ロシアの拒否権発動により否決された。今でも被害者は増え続け、その機能不全が浮き彫りとなっている。このような国連安保理の構造の欠陥を指摘する声は過去に幾度となく上がったが、具体的な議論が交わされたことは少ない。私たちは、この状況を打破するためには国連安保理の構造改革が必須であると考え、新たな国連安保理の形を模索した。
L12	世界を救うお金を集めるには？	国際	現在世界では、貧困に苦しむ人が大勢いる。この問題を解決することは簡単ではないが、私たちが問題解決に向けて、貢献できることもある。その一つが募金である。しかし、今の日本の募金状況はほかの国と比べて芳しくない。そこで、募金活動が進んでいる他国の取組を調査し、実際に日本で行われている活動を調べることによって、今の社会に合った募金方法を考えた。
L13	NO MORE! フェイクニュース!	国際	あなたは「フェイクニュース」を目にしたことがありますか。昨年度、私たちは、フェイクニュースについて各国の対策を中心に研究した。その中で、日本の対策は西欧の対策と比べて寛容であることがわかった。そして、今年度では、法律に重点を置き、引き続き日本や各国の対策を深く調べた。
L14	個人で行う新型コロナウイルス感染症対策	国際	世界各地で猛威を奮っている新型コロナウイルスだが、マスクの着用や、ワクチン接種といった感染対策を行うことによって、被害は抑えられつつある。前回の研究では、国家レベルの感染状況について調査を行った。今回の研究ではアンケートの結果も活用しながら、地域や個人のレベルで行うことができる感染症対策について考察する。
L15	新路線でいこう!	地域社会	現在の豊田市西部及び、みよし市南部には鉄道が通っていない。そのため、名古屋～豊田間の移動には、限られた公共交通機関や自家用車に頼っているのが現状である。そこで私たちは住民の移動手段の選択肢を増やそうと考え、新たに鉄道路線を構想し、それによる地域社会への影響及び、その構想がSDGsの「住み続けられる街づくり」という目標の達成にどれほど貢献することができるのかを検証した。
L16	豊田市の将来を見据えて	行政	豊田市はトヨタ自動車をはじめとする大企業が多く存在し栄えた地域であるというイメージが一般的であるが、一方で観光客を十分に獲得できていない現状がある。そこで私たちは岐阜方面から豊田市方面に向けてバイパスを通そうと考えた。そして未来の豊田市の理想形として「ヒューマンスケール」を発展させた「コンパクトシティ」を考えた。

班番	タイトル	研究分野	要旨
L17	授業中の話し合い活動の現状と改善	教育	昨今、教育現場では、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、様々な改革がなされている。授業中に問題へのアプローチの仕方や意見を共有するといった話し合い活動が行われているが、円滑に行われていない場面が多々見受けられる。そこで本研究では、教員と生徒にアンケート調査を行い、話し合い活動の現状を把握し、改善策を考えることとした。
L18	教育格差はなぜ？どうして？	教育	私たちはブラジルでの教育格差に興味を持ち、前回の研究では、他国の成績向上のための取り組みを参考に、解決策を提示しました。今回は、よりブラジルに特化した解決策となるように、ブラジルの現状の問題点を検討し、実際の学校での過ごし方や教員の状況、校長選挙制度などを考慮して、三つの解決策を提案します。
L19	文理選択のよりよい形とは？	教育	今まで、文系・理系がどうかで就くことに制限があった専門職の一部が、文理を問わず就けるようになってきています。そこで、私たちは文理選択の必要性について疑問を持ち、前回の研究では日本と世界の現状を調べました。外国は日本とは大きく異なる制度になっていることを知り、今回は外国の制度を日本に適用した場合の考察を通して、日本で今後取り入れていくべきだと思われる教育制度について考えました。
L20	英単GO!! 第一志望へレッツGO!!	教育	現在、大学入学共通テストの英語科目において大部分を長文問題が占めています。そのことから、長文問題の正答率が受験の可否に大きく関わってきます。そこで、長文読解のヒントを得るために、男女361人にアンケートに答えてもらい、英単語の学習方法と英語の全国偏差値との関係性について研究しました。この研究を通して、英語の長文を読むのに苦労している人、もっと英語の読解力をつけたい人の力に少しでもなればと思っています。
L21	不登校の過去と未来	教育	「不登校」と聞いて連想されるイメージには、どのようなものも多く、何故その印象が与えられているのだろうか。私たちは本のタイトルや本文の内容から、世間が抱く不登校への印象を紐解くとともに、現在行われている不登校支援を調査した。「学校へ行く」以外の選択肢を提示し、これからの日本に合った支援方法を模索していく。
L22	中学校教育における問題点と個人用タブレットを用いた解決	教育	現代の教育ではICT活用が普及しつつある。本研究では本校の1年生にアンケートを行いそれぞれの出身中学校でタブレットがどのように使われていたのか調査した。これらから、中学校でのタブレット教育のメリット、デメリットを調べ、これらの結果を基に現代の生徒に最も適している教育方法や教育方針を調べ、生徒の関心・意欲を高めるにはどうしたらよいか、またタブレット教育によって懸念される問題点の対処法を考察した。
L23	看護師の人手不足の原因と解決策とは	看護師	新型コロナウイルスの影響で日本の医療がひっ迫している中、看護師不足が明らかになり、前回の研究では日本の医療体制について調査した。そこで本研究では、私たちの地元愛知県に焦点を当てて、看護師不足の解消を目的に現状を把握し、日本全体の医療体制や看護師の待遇、各地域の取組などを比較し、改善策を探究した。
L24	骨髄バンク知ってる？	看護	池江璃花子選手で話題となり登録者が増加した骨髄バンクのドナー登録者の総人口における割合について、アメリカでは約800万人で2.4%に対して日本では2021年4月時点で53万人で0.4%と少ない現状にある。前回のアンケートの結果、上位に「知識不足」がドナー登録をしにくい理由として挙げられた。そこで、西高生に現状を伝え理解を深めてもらうことで興味・関心を高めることを目的に研究に取り組んだ。
L25	豊田市のバリアフリー化を進めるためには？	福祉	バリアフリーは多くの方が暮らしやすいまちにするために必要不可欠なものである。前回の意識調査を通して、オストメイト対応トイレの認知度が低いことが分かった。また、豊田市のバリアフリー化に貢献できるような設備として階段昇降機をあげた。そこで、オストメイト対応トイレと階段昇降機について詳しく調査した。本研究を通して、豊田市のバリアフリー化に貢献する。
L26	NO VOTE NO LIFE	政治	私たちは、日本における選挙の投票率を上げるための方策について研究を行った。まず各国の教育費と投票率との関係性を調べ、相関関係は見られなかったが、ノルウェー、ドイツ、アメリカは特徴的な傾向を示すことが分かった。そこで、その三か国と日本を、選挙制度や選挙活動の様子といった観点から比較し、日本の投票率を上げるための有効な手段について考察した。
L27	Let's reduce、食品ロス!!	日常生活	私たちは、食品ロスを削減するために西高生に食品ロスに関するアンケートを行いました。その結果、認知度は高かったものの削減への取組をしている人は少なかった。このため手軽に取り組める方法を考えた結果、班員で各自家庭で生じた食品ロスとなってしまう食材を使い新たな食品を作ってみました。味や健康にも問題ないものを作れたことから、無駄遣いをして食品ロスしてしまうのではなく有効活用できることを学びました。
L28	有休取ろうぜ!	労働	今日、日本は有給休暇取得率が他国と比べて低い。日本はなぜ低いのかを、有給休暇の制度と有給休暇を取る側の労働者の二つ注目して調べた。制度についてはインターネットや書籍を用いて問題点を考察した。労働者については身近な労働者である豊田西高校の教員へのアンケートを実施し、有給休暇に対する考え方を聞いた。その結果をもとに教員の有給休暇取得率を上げるための解決策を模索した。
L29	まだ使ってるの？現金	経済	日本の電子マネー普及率は他国に比べて低い。前回の研究では、高校生に最適な電子マネーの特徴はスマホ決済であるという結論に至った。今回の研究では、ほかの先進国ではどのような電子マネーの政策をとっているのか調査をした。日本の文化的側面より現金と完全に切り離すことは難しいかもしれないが、諸外国の政策を参考にして対策をとることで、電子マネー普及率を上げることができるのではないかと考えた。
L30	持続可能なスマート農業	農業	1960年代以降の農家の数は減少傾向にある。その背景には重労働や低収入などの原因があり、それを解決するにはIoTを活用したスマート農業が有効であることが分かった。しかし、現在の普及率は低く、有効的に活用されているとは言えないため解決方法を調べた。JAあいち豊田にインタビュー調査を行い、豊田市でのスマート農業の現状について調べ、スマート農業の普及のためのイベントを開くことを提案する。
L31	教育制度の改善による児童・生徒の学力の向上	教育	日本の教育は国際的に高い評価を得ているが、いったいどれぐらいのものなのだろうか。今回の研究では、学力が高いとされる中国・シンガポールの教育について文献調査を行い、日本の教育制度と比較した。「高い教育実績を誇る中国・シンガポールの教育の特徴とは?」「日本の教育との違いは?」について考察し、子供の学力を向上させる日本の教育政策を提案した。
L32	総額価格表示とその影響	経済	2021年4月1日から価格の総額表示が義務づけられた。それを受けて、消費者と販売店にどのような影響があったのかについて研究する。本校の生徒と教員へのアンケート、大手スーパーマーケットへのインタビューを実施し、得られたデータを元に考えられることや分かったことを明確にし、生活への役立て方を提案する。

班番	タイトル	研究分野	要旨
L33	パテコンの教科書	特許	先の研究において、高校生でありながら特許取得を目指すための有効手段としてパテントコンテストと呼ばれるイベントが見つかった。このイベントに関する正しい知識、ルールを広く知ってもらうことで、今後の高校生が自らのアイデア、発明で特許を取得することに貢献できるのではないかと考え、この研究に乗り出した。
L34	豊田市都市計画 ～他都市から学ぶ～	経済	前回の中間発表から視点を変え、地域の「伝統行事」や「都市の景観」に着目した。豊田市をどの世代の人にとっても魅力ある町にするため、現在豊田市では、どのような取組を推しているのかを調べ、比較・検証した。豊田市を魅力ある町や住みやすい町にするために、自分たちでオリジナルの改善案を考え提案した。
L35	“クアドラティックボーディング”を知ろう！	政治	クアドラティックボーディングとは、普段私たちが使用する多数決のような投票方法とは異なる。先の研究で、クアドラティックボーディングと多数決の2つを比較した結果、クアドラティックボーディングでは多数決よりも優先度合がより正確に把握できることが分かった。この結果を踏まえて、今回はSDGsを題材にしてどのような結果が出るのかを調査した。
L36	提案します！最適な暗記方法～ストループ効果に注目して～	脳科学	皆さんは、普段何気なく識別しているトイレの記号の色が、もし逆の色になっていたら違和感を覚えませんか。このように、ある事象のイメージの色と実際に示されている色が異なる場合、理解に時間がかかる現象をストループ効果といいます。私たちは、この現象を利用することで、より効率の良い暗記方法を生み出せるのではないかと考えました。
L37	素晴らしい学習環境を目指して	心理学	大学受験や模試を控えているが、学習に集中できないという悩みは多い。そこで、どのような環境、時間帯が最も集中して学習できるのか、アンケートや先行研究を用いて調査した。
L38	声援は選手のパフォーマンス向上につながるの？	心理	新型コロナウイルス感染拡大防止のため様々なスポーツ大会で声を出さずに応援することが行われた。このような措置に対して「観客の声が聞けなくて悲しい」という選手の意見があった。一方で「緊張せずにできた」という意見もあった。そこで私たちは、前回の実験を踏まえて、団体競技での選手のパフォーマンス向上と声援の影響について調べた。
L39	マスクによる印象の違い	心理	新型コロナウイルスによってマスクの着用が強いられる今の時代、第一印象を決めるうえで大きな影響を与えているのは“マスク”なのではないかと私たちは考えました。顔の大部分を占めているマスク。「マスクが黒色だから怖い印象を持った。」という経験はありませんか？私たちはそのような経験からマスクの色による印象の違いについてアンケートを取り、調査を行いました。